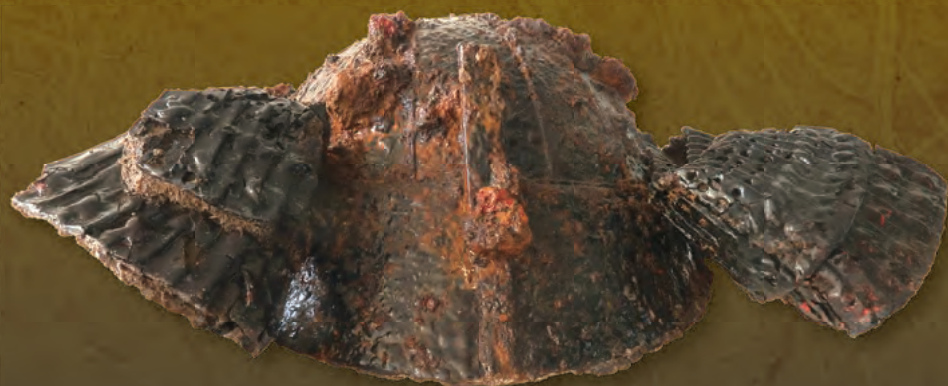


騎西城跡

きさいじょうあと
じゅうろっけんすじかぶと

十六間筋兜

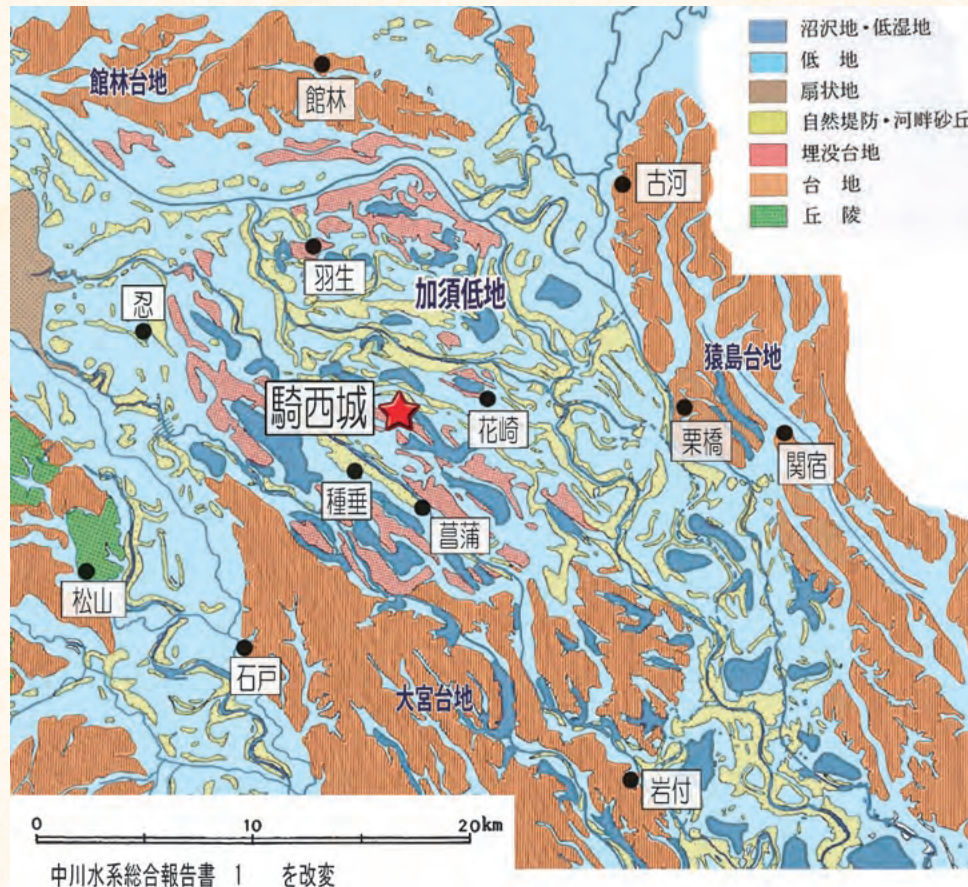


騎西城は、戦国から江戸時代初めの城です。

兜は、平成元年(1989)、騎西城跡の障子堀しょうしほりの底から出土。

発掘調査でシコロ・吹返しが残る兜が城から出土したのは、全国唯一です。この兜は、戦国時代後期、騎西城を攻めた上杉方のものと思われます。

騎西城を掘る



騎西城周辺の地形と城

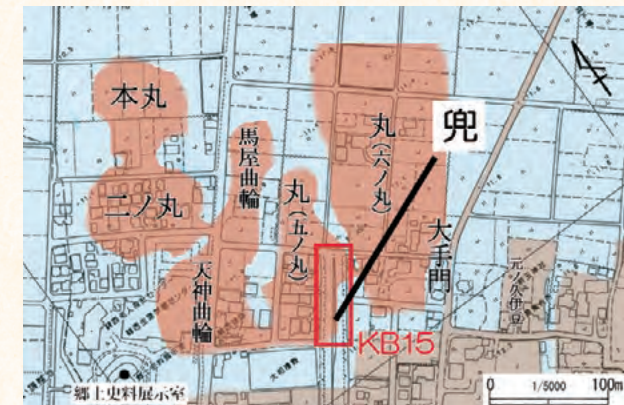
騎西城（加須市根古屋）は、加須低地の南に位置し、戦略上重要なエリアで、周辺にも多くの城が築られました。

騎西城跡は地下水位が高いため、戦国時代から450年間、漆椀などの木製品が腐らず残りました。

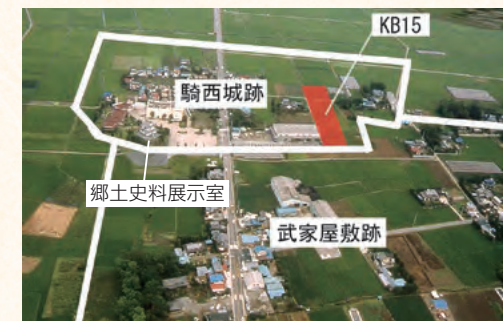
兜も堀の底で奇跡的に保存され、黒漆が鮮やかに残るその遺存状態の良さは特筆されます。



漆椀出土！



兜が出土したKB15区の調査は、区画整理道路の建設に先立つものです。KB15区は、江戸時代初期の絵図によると、城の五ノ丸東と堀（障子堀）に当たります。障子堀や兜は一緒に出土した陶磁器から、戦国時代後期（16世紀後半）のものと思われます。



沼は水田となっています（1985年撮影）

騎西城は、沼（北と西）に張り出す微高地上にあり、その東と南に堀を巡らせ堅固な城としました。（写真上が北）



ポンプをそれぞれの堀に

発掘はポンプで水を抜かないと、足がまっちゃうんだ。すべるので堀から出るのにもハシゴが必要なんだ。



しょうじぼり 障子堀から兜出土！

障子堀は、攻め手の動きを阻害するため、堀の中に障壁（仕切）を設けたものです。堀を掘る際も仕切により排水しやすかったものでしょう。

騎西城の障子堀は、1 mほど掘り下げた堀底を、さらに深さ 1m、方形・長方形に整然と掘り下げたものです。

五ノ丸の南堀は、最大幅 48 mで全国最大級です。

兜出土地点

48m

五ノ丸

土を水で洗い流して兜を掘り出します

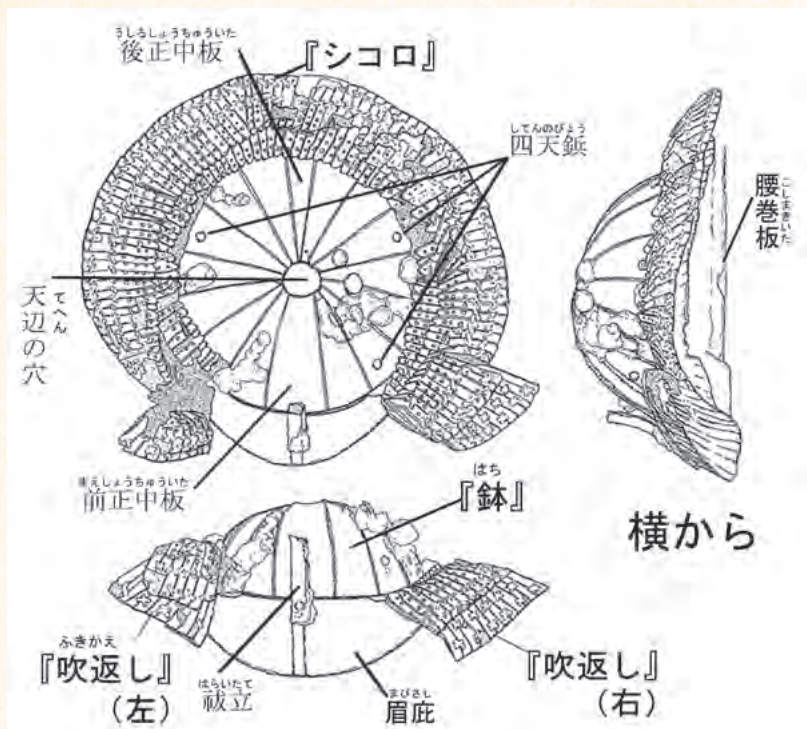
五ノ丸東側の堀では、兜の他に薙鎌・櫓等の武器類、陶磁器や炭化した漆碗・桶・下駄等の生活用具類、炭化粉・人骨が出土しています。いくさやその片付けで堀に落ちたのでしょう。

兜をよく見る

この兜は鉢に筋（高さ 1mm）があること、上から見ると筋の間が 16 あることから、十六間筋兜と言います。

鉢は鉄製。吹返しとシコロは、革の小札を革紐などでつなぎ、黒漆を塗りました。長い間に革は腐り、漆の塗膜と鉢が残りました。

兜は『鉢』と『吹返し』と『シコロ』で構成されます。



上の図面はルーペでよく見て実測したんだよ。



シコロ（漆の塗膜のみ）



革の小札（現代作）



実測のようす

鉢 本体・眉庇・腰巻板からなります。



本体は、前後 26.5cm 左右 24.2cm。16 枚の細長い鉄板を鉢で留めて半球状に作ります。



中央の穴は天辺の穴。もとは、烏帽子の先をこの穴から出して兜を安定させました。後に蒸れを防ぐものとなりました。



眉庇は、鉢の前に付け、ひたいを守り、日ざしや雨をよけます。覆輪（ふちを金属で覆ったもの）の無いやや大きなものです。



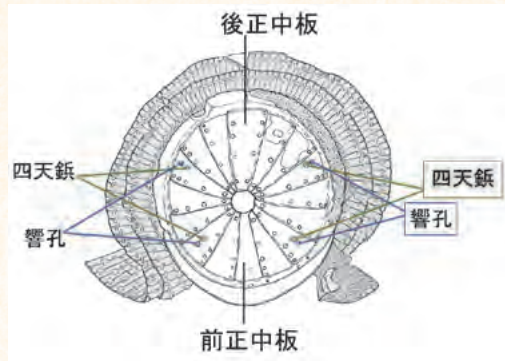
はらい立て 祓立（飾り）を差し込む台で、長方形の筒型です。



腰巻板は、鉢を強く、大きくします。下半分を外側へ水平に折り、シコロを水平に付けます。



内面



内面 響穴（矢印）



四天鉾（白丸）

響穴

内面で確認できます。頭を固定するための紐（兜の緒）を通す穴。

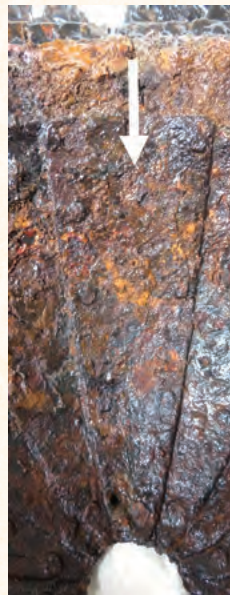
四天鉾

響穴の上にあり、兜の緒を切られないように取り付けました。

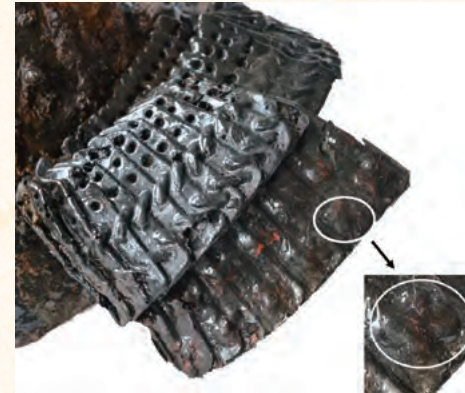
どちらも時代が下がると、飾りとなりました。各4か所あります。

後正中板

前・後正中板に制作者や制作年が刻まれますが、確認できません。



内面 後正中板（矢印）



菱縫

吹返し

視界を保ち、顔を守ります。表面に黒漆が塗られます。左右吹返しの2段目には、2段の菱縫（×状）が施され、一部朱が残っています。



シコロ

吹返しに続くもので、シコロは後頭部と首を守ります。2段の小札板（小札を横につないだもの）で構成されるが、3段目は取り外されたよう。水平に開く笠シコロです。



兜埋没後、鉢が沈んだせいで、シコロはもとの位置より上にずれています。

兜のシコロ・吹返しは、漆の塗膜が残っているだけで、とてもこわれやすいんだ。
展示のため移動できるように補強したよ。

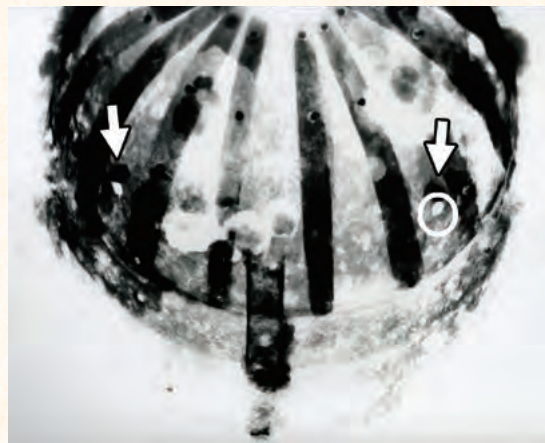


す透かして見ると X 線の写真です。



真上から鉢本体

鉾の数や位置が一定で、16 枚の鉄板が均等に留められています。



前面やや上から

響穴（○印）とその上に四天鉾（矢印）も見えます。腰巻板・祓立も鉾でしっかり留められています。



シコロの様子（弱い X 線）

革の小札が腐り、漆の塗膜のみで白く見えます。鉄の小札は使っていません。

X 線写真からも、熟練の工人在、工具などが揃った工房で多くの規格品を生産したことが考えられます。



きさいくん

騎西城の案内人

騎西城跡出土の兜・前立を身に着ける

激戦の落とし物 兜

騎西城は、戦国時代後期、上杉輝虎（謙信）により、永禄6年（1563）に攻略、天正2年（1574）に放火されています。なかでも1563年のいくさの様子は、輝虎が会津の蘆名氏に送った手紙に詳しく残されています。

—北条氏康・武田晴信（信玄）連合軍の攻撃にさらされた松山城（吉見町）救援のため、謙信は11月深雪の中越後から越山した。2月に石戸（北本市）に着陣、松山城に間近にせまったが、既に落城していた。

上杉方は攻める城を探した。近くに敵方忍城成田氏の身内小田助三郎が守る崎西（騎西）城があった。年寄どもは「四方を深い沼に囲まれた要害で攻めがたい城だ」と申したが、上杉方は「松山城の件は悔しく、闘うことがなければ若年の者どもの戦意が低下する」と攻撃することにした。

武具を整え、戦略を練り、順調に「外廻輪・中城」を攻め落とし、とうとう「実城」（本丸）ばかりとなり、小田助三郎は降伏した。

『伊藤本文書』より



この激戦の際に、城内に侵入した上杉方が、兜を障子堀に落したのでしょうか？

城下に広がる戦闘



騎西城は城の周りだけでなく、城の南にも障子堀を巡らせ守りを固めました。

城と城下で激戦があったようで、二ノ丸で馬面・小札（鎧の部品）、天神曲輪で炭化物や野沓（鞍の部品）、五ノ丸西で炭化物とつぶれた弾丸、五ノ丸東で薙鎌・轡・炭化した粉や下駄・漆椀、六ノ丸で筭金物・槍先・刀の部品・矢尻、城の南で腰刀・槍先・馬鎧・火縄ばさみ・前立が出土しました。弾丸は調査区全域で出土しました。



ばめん
馬面

馬の顔面装飾具。目の部分のみ。薄い銅板に鍍金をします。



こうがいかなもの
筭金物

鎧の肩の袖を飾ったもの。菊の花と葉の透かし彫は高品質で、南都(奈良)で制作されました。長さ 5.8cm。

バリ付き 失敗品 つぶれ



弾丸 約 100 点出土。鉄製 6 点、残りは銅製と鉛製で半々。

バリ付や失敗品は騎西城で作った証拠。撃ってつぶれたものも。



なさがま
薙鎌

刃渡り 32.4cm と大型。馬の脚を払い、馬上の武士を引きずりおろしました。



うまようい
腰刀

柄はサメ皮に金箔を貼り、つばは金色に輝きます。長さ 30cm。



くつわ
轡

馬の口まわりに着け手綱で操作しました。



うまようい
馬鎧

2.2cm 角の小札 140 枚出土。布に縫いつけました。黒漆を塗り表のみに金箔を貼ります。北条氏軍備の文書に「馬に金の鎧を着せよ」とあります。

まえだて
前立

断面三角で、柄の黒漆が残ります。



まえだて
前立

木の板を菖蒲の葉にかたどり、表裏に金箔を貼ります。3 本セットで兜の前に立てたもの。長さ 58cm。



うまようい
火縄ばさみ

火縄銃の部品。長さ 10.5cm。火縄銃は戦国時代後期に出現し騎西城でも活躍しました。

上杉方大将の兜!?

兜の特徴を比べると、

騎西城	鉢	上から見ると正円に近い半球状＝ ^{えんざん} 円山
	シコロ	笠ジコロ（笠のように広がる）／小札を使用
東国 （関東周辺）	鉢	上から見ると卵形
	シコロ	板札（横長の板）を使用
上杉氏 （越後）	鉢	円山に近い
	シコロ	笠ジコロ／小札に似せた板札を使用

騎西城出土の兜は、地元東国のものではなく、越後の上杉謙信・^{かげかつ}景勝のものといわれる兜に似ています。

また、兜・鎧は上級の武士のみが所有でき、この兜は上質で、大将級の武士がかぶったものと思われます。

東国(六十二間筋兜) 兜鉢銘 義通(個人蔵)	騎西城	上杉氏 (伝上杉景勝所用/ 新潟県立歴史博物館所蔵)
		
卵形	円山	円山に近い
		
シコロ現代補	笠ジコロ	笠ジコロ
		
板札（伊達政宗所用に倣う）	小札	小札に似せた板札

騎西城の兜 全国唯一！

全国の発掘調査による甲冑の出土例は、中世では^{すいほうでん}瑞鳳殿遺跡－墓所（仙台市）と、長福寺跡（神奈川県清川村）で戦国時代の兜鉢、中世大友府内町跡で戦国時代の兜鉢本体（大分市）、山中城（静岡県三島市）で戦国時代の兜のシコロ、^{はしたに}端谷城（神戸市）で室町時代の鎧 13 領、^{ほうじゅうじ}法住寺殿跡（京都市）で平安時代の鎧 5 領などと数少ないです。そしてシコロ・吹返しが残る兜が、城から出土した例は騎西城の他にはありません。

兜鎧はもともと高価で少なく、特に兜鉢は貴重だったのでしょう。

学術的な意義

- 戦国時代（16世紀後半）騎西城で、実際にいくさで使用された歴史資料である。
- 後世に修理などの改変をされずに、使用当時の形を残している。

これらのことから、**全国的にとっても希少な兜である**といえます。

コラム

金貨 発掘調査で3種一括出土 国内例なし！

小判が流通する前の金貨で、重さで価値を計る^{ひょうりょう か へい}秤量貨幣。蛭藻金の純度は90%以上と高品位。蛭藻金と^{きりきん}切金はさらに発色を良くする処理が行われています。^{つゆきん}露金は砂金を元に製造か？蛭藻金の長さ4.8cm。重さ15.8g（1両相当）。
武具や装飾となる金属生産をしたエリアで出土。その合金の素材？



蛭藻金



露金



切金

金貨は、武具をきらびやかにする材料にしたのかな？



Kisaijou ato Jurokken Sujikabuto



兜の取り上げ動画や騎西城について、
加須インターネット博物館を御覧下さい

令和6年3月発行

加須市教育委員会 生涯学習課 文化財担当 電話 0480-62-1223